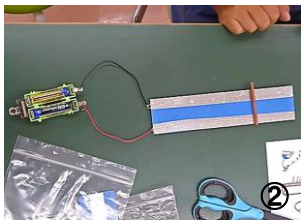
環境リーダーNews

特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会「会報」
ホームページ　http://kankyo-leader.org/

2020 10/28
Vol.112
季刊発行　秋号

■ 今刊、縮小４ページ編集
■ 当会のアイデンティティ
■ 市民環境活動報告会「開催延期」

①


②

③

④

⑤

⑥

はまぎん こども宇宙科学館･洋光台サイエンスクラブ
2020年度 環境体験教室 報告

横浜こども科学館担当 石原靖文

コロナ禍が続く中で、９月に開催された６教室についてご報告します。感染防止のため、参加人数を通常の半数程度に削減し、マスク、フェースガードを付けて開催されました。

①**「植物ジュニアレンジャー活動（４）たのしい里山体験」**９月５日（土）
県立「四季の森公園」で里山体験を行いました。ジュニアレンジャー活動の目的や里山の仕組みなどを説明した後、水車小屋や炭焼き小屋を観察しました。田んぼでは、外来種のキショウブ、在来種のコウホネなどを観察、里山体験についてプレゼンテーション練習の発表を行いました。シェアリングネーチャーでは「ミニすだれ作り」を体験しました。

②**「磁石の不思議実験とリニアモーターを作ってみよう」**９月６日（日）
始めに、磁石の特徴を実験などで理解を深め、リニアモーターの仕組みを説明しました。アルミテープでレールを作り磁石 10 個を並べて貼って、電池ボックスとつないでリニアモーターを作りました。レールの上に金属丸棒をおいて、電池をセットすると丸棒が動き出しました。電池を逆につなぐと、動く方向が逆になることも確かめました。

③**「八重のかざぐるま」を作ろう」**９月 12 日（土）
始めに、科学館隣接の公園で植物観察を行いました。ソメイヨシノ、コブシ、マテバシイなどが今の季節はどのように生きているかを説明、観察しながら植物の理解を深めました。観察中に偶然、タイワンリスも観察できました。かざぐるま工作では、ナイフや定規を使わずにハサミと目打ちだけで組み立てました。道路などで回して遊ぶ時の注意も説明しました。

④**「江戸時代からの未来へつながるヒント」**９月 13 日（日）
江戸時代は、海外から食料、エネルギーなどが入らず、現代の大量消費、使い捨てではなく、ものを大事に使用し、再利用、再使用していたことを画像などで説明しました。使い捨てレジ袋の話の後に風呂敷の有用性を解説し、風呂敷で包み、結ぶ体験をしました。古新聞紙でスリッパ作りや稲わらで縄をなう体験をしました。

⑤**「めざせ植物ジュニアレンジャー（５）伝えよう！植物の不思議とたのしさ」**９月 26 日（土）
植物観察は、科学館隣接の公園でクスノキ、アカメガシワ、アレチヌスビトハギなどの植物の特徴を観察しました。ワークショップでは、植物を素材にした植物版画で新聞を作って発表しました。今回の教室で５名の「植物ジュニアレンジャー」が誕生しました。

⑥**「人工の雲を作ろう」**９月 27 日（日）
生きものにとって水は重要なものであることをクイズなどで学び、地球上の水循環、雲の役割や水資源の大切さについて理解を深めました。「人工の雲づくり」では、雲の発生、天気と雲、低気圧と高気圧、ゲリラ豪雨など気象の説明の後、ペットボトルの中に人工の雲作りを体験しました。ペーパークロマトグラフィで水性ペンの色素分離も体験しました。

●当会の会員数（2020 年10月８日現在） 正会員:67 名、賛助会員:4 名、合計:71 名

Leader's TOPICS

神奈川県環境学習リーダー会のアイデンティティ

理事、広報部長、エネルギー部会　**小林信雄**

神奈川県環境学習リーダー会は、一昨年、設立 25 年目を迎えた。そこで、当会「会報」の創刊号から現在誌までの全刊をめくって見て、設立の意義や取り組みを振り返り、当会のアイデンティティ（自分らしさ）を端的に書きとどめた。当会の起源は、神奈川県環境科学センターが 1993 年（平成 5 年）9 月に実施した「第 1 回 環境学習リーダー養成講座」の修得から始まった。

その当時、同センターの懸念は、身近な環境問題をグローバルな地球環境問題も視点にいれて環境問題を解決するには行政だけでなく市民一人ひとりが生き方、暮らし方を考え行動する方法を学び、理解し実行・実践することの必要性を痛感。しかし、その実践と行動が少数派で、多くの人々は無関心層か関心層の間に止まっているのが現実であった。

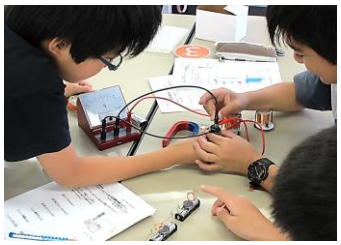
そこで、積極的な取り組みを理解し、実践活動に結び付けて行く地域リーダーが必要と考え、講座のカリキュラムに神奈川大学、東京農工大学などの参画を得て環境学習リーダー養成講座を開設した。その第 1 回講座を修得した受講生の有志数名が講座開設の意義に賛同し、プロパーとして実践活動へ踏み出すべく集結して発足したのが当会の創設である。従って、当会の名称は同センターの意図を継承する意味をこめて「神奈川県環境学習リーダー会」と命名されている。

設立後の数年は、プロパーたちが年々増加し、豊富な知識をもって環境課題の分析や実践行動、運営方策、先駆者としての役割などの検討が進められた。その結果、会員の専門性を活用した部会制を導入して、地域の環境保全、環境学習の意識を盛り上げるリーダー役を担うべく「ケナフ部会」、「環境モニタリング部会」、「エネルギー部会」、「自然環境部会」を発足させた。

具体的な実践活動の展開は、「市民環境活動の普及」と「子ども環境体験教室」の二本立て。市民環境活動の普及では、市民が環境保全活動を実践している様子を発表する報告会を開催して、実践活動層の盛り上がりを図るもの。この報告会では著名人の基調講演と各分野の市民活動の成果を発表、参加者 100 名規模で現在まで毎年定例開催を続けてきた。本年 2 月には第 26 回の市民環境活動報告会を開催し盛況裏に終えた。

子ども環境体験教室は、学校での机上環境学習を具現化した自然観察体験、科学実験、創意工作などを体験しながら子どもたちの好奇心に触れ理解を深め、将来の環境保全活動に貢献しうる人材の増殖が狙い。現在は年間 70 教室規模で子ども向け体験教室を実施している。

設立から 25 年間の主な変遷を【右年表】に示した。



環境体験教室

市民環境活動報告会

SDGs（持続可能な開発目標）は、グローバル人間社会の多くの課題を 17 分野に分類して目標を明確化された。当会では、この SDGs が国連サミットで採択（2015 年）された時期より、10 数年前から環境保全活動に取り組んできた。17 分野のうち環境保全関連の 8 分野は SDGs と同じ目標に向けて進めている。

現在の講師陣には、プロパーの入会者が減少しているが、企業で培った豊富な専門知識の所持者が加わり、新たな視点の企画やプログラムを展開している。その取り組みのモチベーションは、当会創設当時の意義、地域リーダーとしての役割を踏襲しつつ、現代感覚を導入して目標達成への使命感、事業展開の達成感・満足感を得ながら業務を遂行している。環境保全活動への展開は、行政、学校、地域団体などの環境イベント企画・講座開催を主催・共催など、地域の環境活動を進めている。

当会の活動方針、組織情報、活動報告など詳しくはホームページ「環境リーダー会」検索にて閲覧できる。

神奈川県環境学習リーダー会の主な変遷

1993・H5：「環境学習リーダー連絡会」設立
1994・H6：会報「エコ・1」創刊
1995・H7：「市民環境学会」開催協力
1998・H10：「環境科学センター」協働体制設定、会員数 140 名
2000・H12：「ケナフ部会」、「環境モニタリング部会」、「エネルギー部会」、「自然環境部会」発足
2001・H13：「市民環境学会」を「市民環境活動報告会」改称
2002・H14：「神奈川県環境学習リーダー会」改名
「環境科学センター」子ども環境体験教室に開催協力
2004・H16：「大気環境部会」、「水環境部会」発足
「かながわ地球環境賞」、「暮らしの工夫展賞」受賞
2005・H17：「グリーン部会」、「廃棄物部会」発足
2007・H19：「NPO 法人 神奈川県環境学習リーダー会」法人設立
2008・H20：「かながわコミュニティカレッジ」開催
2009・H21：「神奈川県環境保全功労者賞」受賞
2010・H22：「市民環境活動報告会」実行委員会主催
2013・H25：「横浜こども科学館」環境体験教室を運営協定
2015・H27：会報「環境リーダーNews」改名、ロゴマーク設定
2017・H29：環境大臣賞「地域環境保全功労者賞」受賞
2018・H30：「夏休み子ども環境体験教室」主催
2019・H31・R1：「大気・水環境部会」改称、会員数 75 名

【引用資料】
■神奈川県環境学習リーダー会「会報」、創刊号～Vol.110

■教室イベント情報	月日（曜）	開催時間	開催場所	開催担当
■ふしぎな、不思議な種の世界	11 月 7 日（土）	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	自然環境部会
■どんぐりを育てよう（親子教室）	11 月 14 日（土）	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	グリーン部会
■手作り石けんを楽しもう	11 月 28 日（土）	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	会員教室
■めざせ植物ジュニアレンジャー特別講座、伝統植物と門松を作ろう	12 月 20 日（日）	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	自然環境部会
■アルソミトラの種をまねたグライダーを作って飛ばそう	1 月 30 日（土）	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	会員教室
■サトウキビをかじり、世界の今を知ろう	1 月 31 日（日）	10:00～12:00	はまぎん こども宇宙科学館	グリーン部会

●定例部会情報	開催月日（曜）	開催時間	開催場所	部会長
●エネルギー部会	11 月 25 日（水） 12 月 23 日（水） 1 月 27 日（水）	勉強会 15:00～ 定例会 16:30～17:30	県民センター 会議室	鈴木勝男 （桑原 清）
●自然環境部会	11 月 18 日（水） 12 月 16 日（水） 1 月 20 日（水）	15:00～16:00 （当面 開催見合わせ）	県民センター10 階 ボランティアサロン（人数制限）	吉田和史
●大気・水環境部会 ●グリーン部会	未定	―	―	伊藤富男 柳川三郎

「第27 回 市民環境活動報告会」「開催延期」のお知らせ

日頃より環境保全活動にご尽力されている皆様方に深く敬意を表します。毎年実施しておりました「市民環境活動報告会」に参加ご協力をいただきました方々に深く感謝申し上げます。

さて、「第 27 回市民環境活動報告会」は、2021 年 3 月に開催することで検討を進めておりましたが、新型コロナウィルス感染防止の観点や本年度の環境活動状況を踏まえ、報告会を次年度以降に延期することを決定いたしました。

環境活動の発表を予定された方々には、申し訳ありませんがご理解、ご協力をお願いいたします。

尚、次回の報告会の検討資料にいたしますので、アンケートにご回答いただきたくお願い申し上げます。

実行委員長　吉岡嗣二郎

お知らせ URL・アンケート用紙

第 27 回市民環境活動報告会・実行委員会

■■■■ アーカイブス ■■■■

「市民環境活動報告会」は、県内各地域で自主的に環境保全活動に取り組んでいるグループ活動や研究成果などの意見交換の場として、1995 年（平成 7 年）2 月に、第 1 回「市民環境学会」の名称で、神奈川県環境科学センター主催にて同センターで開催されました。この開催では 6 件のテーマ報告とパネルデスカッションが行われ、85 名の出席がありました。

2000 年 2 月の第 6 回開催では、この市民環境学会の注目度が高まり 100 名を超える出席者があり国会議員 2 名の出席もありました。翌 2001 年の第 7 回開催で名称を「市民環境学会」から現名称「市民環境活動報告会」に改名されました。2010 年 2 月の第 16 回「市民環境活動報告会」からは環境 3 団体、神奈川県環境学習リーダー会、かながわ環境カウンセラー協議会、かながわ地球環境保全推進会議にて実行委員会を構成して開催しています。昨年度で第 26 回の開催を数え、今年度の第 27 回は新型コロナウィルス感染拡大防止のため初めての開催延期となりました。

●引用資料：神奈川環境学習リーダー会の「会報」

寄付金納付のお願い

代表理事　田口繁雄

会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より当会での環境体験教室の実施や参加などでご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当会は本年度前期には新型コロナウィルス拡大の影響により活動がほぼ停止しておりましたが、7月から少しずつ活動が再開しはじめました。この活動がこれからも活発に進めて行きますので、会員皆様方には大変恐縮ですがご寄付をお願い申し上げます。

1　寄付額

正会員の方、賛助会員の方、家族会員の方
1,000 円/1 口　以上

2　振込先等

●郵便振込の場合
口座番号　00230-4-30769
神奈川県環境学習リーダー会

●横浜銀行振込の場合
横浜駅前支店(383)　口座番号　3286964
ﾄｸﾋ)ｶﾅｶﾞﾜｹﾝｶﾝｷｮｳｶﾞｸｼｭｳﾘｰﾀﾞｰｶｲ
特定非営利活動法人　神奈川県環境学習リーダー会

●会計担当者への直接渡しも、お受けいたします。

3　その他

本件についての問い合わせは田口繁雄、又は吉岡嗣二郎へお願いします。

●よこはま夢ファンド●

この助成金は当会の環境活動に大いに貢献しています。会員の皆様、当会を指名して「よこはま夢ファンド」へ寄付をお願いします。ふるさと納税の減税対象です。

事務局だより

武澤研二

■　理事会の開催予定

・１１月１２日（木）
・１２月１０日（木）
・１月１４日（木）

（場所と時間はいずれも「かながわ県民センター」705 会議室、14:00～16:00）

会員募集

一緒に“エコ学習”しませんか？
エコ学習を見学できます

詳しくは、ホームページをご覧ください
http://kankyo-leader.org/support-recruit.

■ 編集後記 ■　コロナ禍の影響で環境活動の多くが中断され、巣ごもりの自粛生活が長期間続いたことから、この機会に、当会が設立された意義の原点について想いを巡らし、「当会の自分らしさ」（アイデンティティ）について考えてみた。その内容を、本誌の「TOPICS」（2 面）に掲載した。

その掲載の中で、神奈川県環境科学センターが「環境学習リーダー養成講座」を開設した目的について触れた。講座開設の意図の記述は、その当時、同センター所長であった小島幸夫氏が、当会の「会報・創刊号」（1994 年）に寄稿された文面から引用した。

「環境学習リーダー養成講座」は現在も継続して年次開催されており、環境活動の実践リーダーを生み出し続けている。環境活動の実践に関心があり、一歩踏み出す機会を模索している方々には、是非受講されることをお勧めしたい講座である。　小林信雄

■　特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会　「会報第112号」 2020年10月28日発行
■　発行者：代表理事 田口繁雄　　編集：広報部長 小林信雄
■　所在地：〒226-0005 横浜市緑区竹山三丁目2番地４　竹山3201－134
■　Web：http://kankyo-leader.org/　・ご連絡、お問合せ　E-Mail：npo.k.leader@gmail.com
◆　寄付・会費等納入口座：ゆうちょ銀行00230-4-30769　神奈川県環境学習リーダー会
★　©不許複製：神奈川県環境学習リーダー会

「 環境リーダー会 」検索

本会報は、当会ホームページにフルカラーPDF 版にて掲載しています。郵送配送版や展示版はモノクロ印刷版です。